

令和3年度後期アーバンデザインスクール第4回実績報告書

1. 開催日時

令和4年2月18日（金）18時30分～20時00分

参加人数: UDCBK での視聴: 1名、オンライン: 12名=計13名

※オンライン会議システムとUDCBKのオープンスペースでの視聴を併用

2. テーマ

「保育園とまちづくり」

- 子育てから未来に向けたまちづくりを思い描いた時、どのようなことを考えていく必要があるか。各分野の専門家の多角的な視点から、まちづくりと子育てについて全5回シリーズで展望する「子育てからまちづくりを考える」の第4回目である。
- 第4回目の本スクールでは、保育園を拠点に、子ども・保護者・保育園・地域コミュニティが共に育ち合う「子育てコミュニティ」をつくる方法について、後藤 智香子氏に話題提供いただきながら、及川清昭氏（UDCBKセンター長、立命館大学工学部特命教授）のコーディネートのもと展望していく。

3. 話題提供者

- 後藤 智香子 氏
東京大学 先端科学技術研究センター 特任講師



4. 話題の概要

後藤氏による講演

ア. 自己紹介

- これまで空き家を地域の居場所とするようなコミュニティスペースの研究や東日本大震災後の復興まちづくりの中でコミュニティの場をつくる取組などを実践してきた。
- 現在は郊外住宅地の維持再生についての方策や高層居住が子どもの成育に及ぼす影響などを研究している。
- 自身の体験として保育園建設反対の場に出くわしたことも、まちづくりの観点から保育園を研究するきっかけになった。

イ. まちづくりからみた保育園の可能性

- 保育学の専門である大豆生田啓友氏は、21 世紀型保育を創る上で「共に育ち合うコミュニティの生成」がキーワードになるとし、保育園は地域がつながる場として非常に可能性があるとして述べている。
- 近年、「保育園は迷惑施設である」と言われるような事象を取り上げた新聞記事などが目立つようになったが、保育園と地域が win-win な関係になるためにはどうすればよいかということを考えている。
- 「まち保育」という言葉（横浜市立大学 三輪律江氏の提唱）が聞かれるようになってきているが、これは、まちにある様々な資源を保育に活用して、まちでの出会いをどんどんつないで関係性を広げていこうというものである。
- ソフト面として保育園内外のコミュニティをつなぐ役割を担う「コミュニティコーディネーター」と呼ばれる職員を配置しているところがある。
- ハード面では、カフェやギャラリーを併設し、地域と保育園の境目を無くすという取組を行っているところがある。

ウ. 草津市の保育園をとりまく状況

- 草津市の子ども・子育て支援事業計画によると、人口減少社会であるにもかかわらず、草津市では子ども人口は横ばいとなっており、保育ニーズも増えている。
- 保育施設の整備の方針としては、保育ニーズに対応するため、今後も教育・保育施設の整備を実施することが明記されている。

エ. 保育施設整備にあたり地域社会から反発を受けた事例の全国実態

- 2010 年から 16 年における全国 3 紙の記事から反発の事例を調査したところ、7 年間で 157 点が抽出され、2016 年に掲載数が急増していることが分かった。
- 記事から保育園の開設反対事例が 133 施設にのぼることが判明し、その内、空間整備

(新築、改修、建て替え、増改築)を伴うものが70施設あった。その他の63施設は、公立保育園の民営化や統廃合などに関する内容であった。

- 整備を伴う事例が発生している地域を見ると、首都圏や関西圏、名古屋周辺といった都市圏が中心となっていることが分かる。また、大半(51施設)が、私立施設(民間企業や社会福祉法人など)が民有地に整備しようとした事例である。
- 争点として、立地に関しては騒音や交通事故の危険性が高まることが挙げられる。また、開設プロセスについて、プロセスが一方的であったり、事前説明が不十分であったりといった点が問題となっている。
- 近隣住民による反対が多いが、最終的に開設に至る事例と断念・白紙撤回となる事例の両方がある。
- 施設の整備方法では、行政主導の場合、(1)公園の転用、(2)公営集合住宅の空き住戸の転用、(3)施設の集約といったものがあり、民間主導では、私有地への立地が主である。
- 公園の転用、空き住戸の転用では、それぞれ公園利用者や住民からの反発といった事象が発生した事例があり、施設の集約では保育環境の悪化(定員の増加や遊び場の減少など)の問題が見受けられ頓挫した事例もあった。また、騒音や交通の問題から、当初の予定地である中心部から離れた郊外に整備せざるを得ない事例もある。

オ. 住宅市街地内民有地を活用した民間事業者による保育施設の整備(3事例)

(ア) A市(人口230万人)の事例

- 市の「子ども・子育て支援事業計画」には施設立地について具体的な記載はなかったが、小学校区毎に保育ニーズを算出し、特に設置が望まれる地域において社会福祉法人による整備を行うことになった。
- 着工後に、近隣住民が他の保育施設の開設反対の新聞記事報道に接し、反対の声を上げるようになった。理由としては、狭い道で危険性や駐車場の数への不安といった交通問題や騒音問題であった。
- 着工後の反対であったため、事業者は施設計画について大きな変更せず、対応策として、駐車場の確保や交通安全看板の設置、また遮音フェンスを設けるなどした。
- 開設後、自治会との間で運営連絡会が設置され、地域との情報共有の場になっている。また、地域がゾーン30に指定されたり、保育園がこども110番の場所になったりするなど、安全安心のまちづくりにつながっていった。

(イ) B市(人口6万人)の事例

- 市外の社会福祉法人が、十分な面積や道路幅がある土地に保育園を建設しようとしたところ、近隣住民から事前説明がないことや市内の事業者でないこと、また交通・

騒音などを争点に反対された。

- 最終的に施設は開設したが、出入り口や窓の配置などの計画を変更し、約 60m に渡って高さ 3m の遮音壁を設置することになった。
- 開設後、地域と保育園の交流がなく、三年以上が経過している。双方とも交流の必要性は認識しているが、自治体などの仲介者もおらず、きっかけがない状況である。

(ウ) C市（人口10万人）の事例

- 待機児童が発生しており、保育施設の整備が急務な状況であった。
- 市内で施設を運営する社会福祉法人が当初開設を考えていた土地は、近隣住民の交通問題に対する懸念から断念した。結果的には、自治会長の協力もあり、代替地が見つかって、開設することができた。
- 現在は、近隣住民とも良好な関係を築いており、収穫体験の機会を園児に提供するなどしている。
- 当該の事業者は、C市以外でも保育園を運営しようという意欲があり、他地域でも地域との接点（近隣住民が使える足湯の設置や収穫体験、ハロウィンでの交流など）、がある施設を開設した。

(エ) 事例を通じて収束結果とその要因および収束後の保育施設と地域社会との関係

- A市の事例からは、反対運動にも関わらず収束後に保育園が地域につながっていったことからまちづくりの拠点としての可能性が示唆されている。一方、B市では交流がまだないことから、反対運動の発生が機会の喪失につながってしまったことを示している。またC市においては、非常にユニークな交流が生まれている。
- 東京都の郊外の都市における保育施設の調査からは、施設整備において、否定的意見だけでなく好意的意見も出ていることが分かる。実際、否定的意見はごく少数であるが、好意的意見は新聞等で取り上げられにくいので、否定的意見が目立つようになっている。
- 地域行事への参加や保育園の行事への招待、また日常のあいさつなど運営時における地域との交流が大切であり、そういった取組によってまちづくりの担い手として保育園が活躍できる可能性が生まれてくる。
- ほかに、園児がお散歩する際に、地域資源を活用しながらまちを歩くコースをつくると、まちとの接点が生まれてくる。
- 様々な取組事例から示唆されているように、保育園もまちづくりの担い手になり得るというような可能性を秘めているので、そういった視点から保育園を捉え直すことも重要であると考えられる。

5. 質疑応答等

- (1) 参加者 1: 一つ目はコミュニティコーディネーターについて、現状でも保育園の先生は業務で大変だと思うが、その役割を誰が担っているのか。二つ目は、どうしても否定的な意見が目立ってしまう中、好意的な意見が見える化できるような事例があれば教えてほしい。

後藤氏: まず、コミュニティコーディネーターについて、保育士の資格を持っていることもあるが、保育士というよりは事務職を担っている人が地域の人たちを巻き込む役割を持つことで、コミュニティコーディネーターとして雇用されている事例がある。また、否定的な意見について、声の大きい人は一人ということもあるが、それが影響を及ぼしてしまう。おっしゃったようにサイレントマジョリティである好意的な応援してくれるような意見が見える化できるとすごくよいと思う。

参加者 2: 多数決になると、マイノリティの人の生活を脅かしてしまうということにもなるかもしれないので、色々な意見がフラットに見える仕組みがあればよいと感じた。

- (2) 参加者 2: 老人福祉施設と保育園が一体化しないまでも、通園する子どもたちが、その老人福祉施設の前を通過、「こんにちは」とか、「おはようございます」というような声が聞こえるようなかたちになれば、お互いつながりができて、元気も出るようになるのではないかと思った。

後藤氏: おっしゃるような関係性は、お互いの施設に入りにくい（特にコロナ禍のような）状況になって必要だと感じる。そういった関係性の仕組みづくりができたらいと思う。

及川氏: 今年度、立命館大学の建築設計の課題演習で、そのような保育園、老人福祉施設、さらに児童館を複合させたような施設を学生が考えた。後藤先生の方で、機能を複合させて地域のコミュニティづくりに貢献している事例をご存じであれば教えていただきたい。

後藤氏: サンドウィッチカフェと一緒にいる保育園の事例はあるが、コミュニティに貢献しているような事例にはまだ出会えていない。

及川氏: 例えは悪いかもしれないが、清掃工場と温水プールを組み合わせるといように何か市民も保育園を迷惑施設と思わず一緒に楽しめるようなところがあれば面白いと感じた。

参加者 1: お互いが異なる目的で来ているのだけれども、一つの場所に色々な世代が集まって、何度も顔を合わせているうちにお互いの理解を深めていくような

居場所がまちづくりのヒントになるような気がした。そういう事例は既にあるのか。

後藤氏: 例えば、CCRC として様々な福祉施設が一つの敷地の中に緩やかに配置されている「Share 金沢」という場所は参考になると思う。ここでは、自然に接点が生まれる仕組みがつくられている。

参加者 1: また、それぞれの施設のコーディネーターが連携できると、互いがつながる場ができてくると思う。

後藤氏: 確かにそういったつながりができれば新しい取組が生まれそうだと思う。

(3) 参加者 4: 例えば騒音問題などで民間同士が合意形成をしていく際のポイントや、合意形成が上手くいった事例などがあれば教えてほしい。

後藤氏: 一つはお互いがお互いの話をよく聞くことが大切だと思う。最初は声を荒げる人であっても、話を聞けば、最終的には世間話ができる関係になるということもある。そうなれば、フラットに議論ができる。また、遮音フェンスは国の補助金が出ているが、個人的には疑問がある。さらに、時間をかけて立地場所を選定することも大切だと感じる。

(4) 及川氏: 後藤先生はお子さんを大学の学内保育所に預けられていたとお伺いしたが、何か問題点など感じたことはあるか。

後藤氏: 大学の中のつながりはできるが、近所のお母さんと知り合いになる機会がなかったという経験をした。近所の公園などに行って世間話をすることはあるが、あまり知り合いが広がらなかったように思う。やはり、コミュニティづくりや頼れる関係性をつくるという意味では、住んでいるところの近くの保育園に通わせるのがよいと実感した。

及川氏: そういう意味ではやはり保育園が地域の小さな核になってまちづくりにつながっていくのだということが非常に説得力のある御意見として伝わってきた。

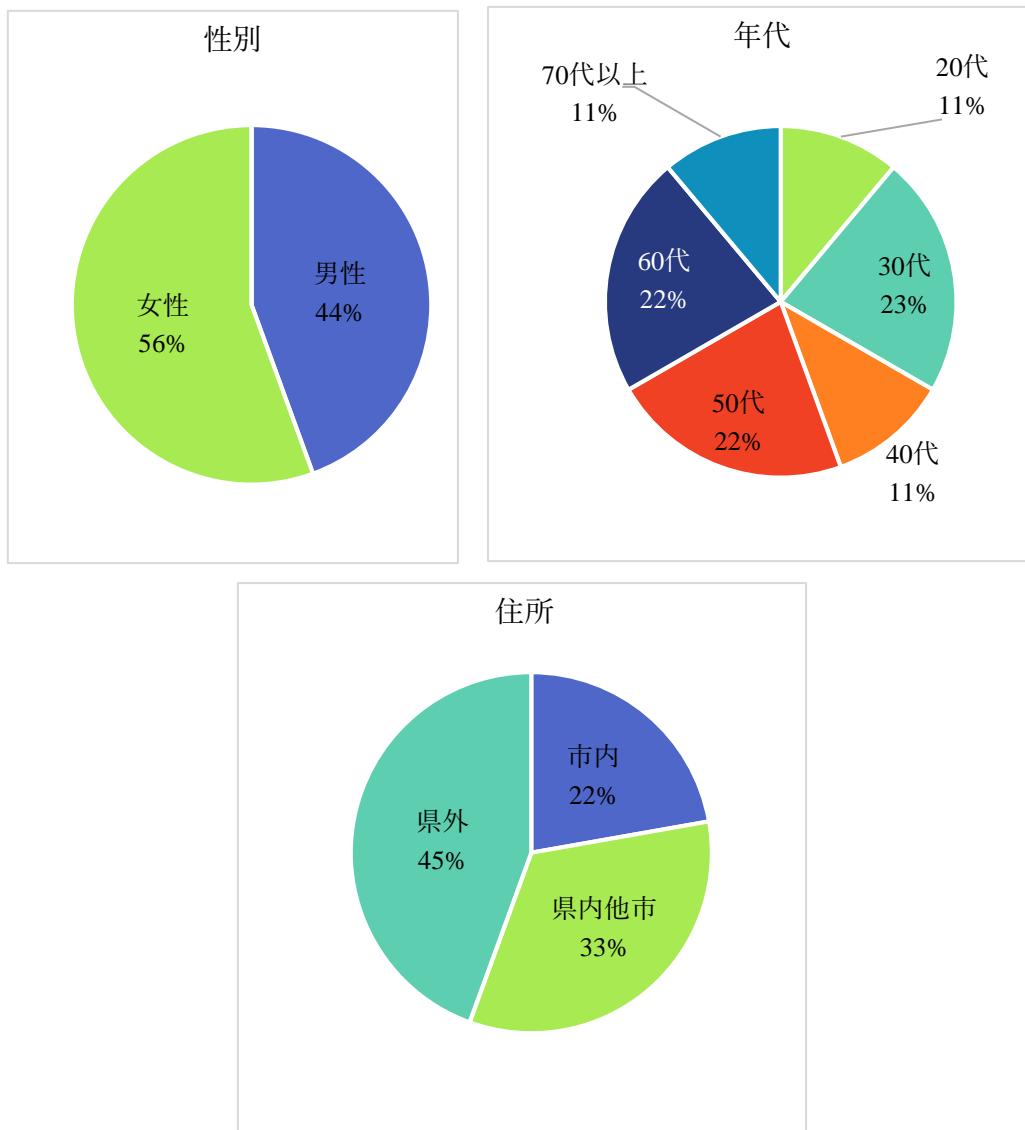
6. まとめ

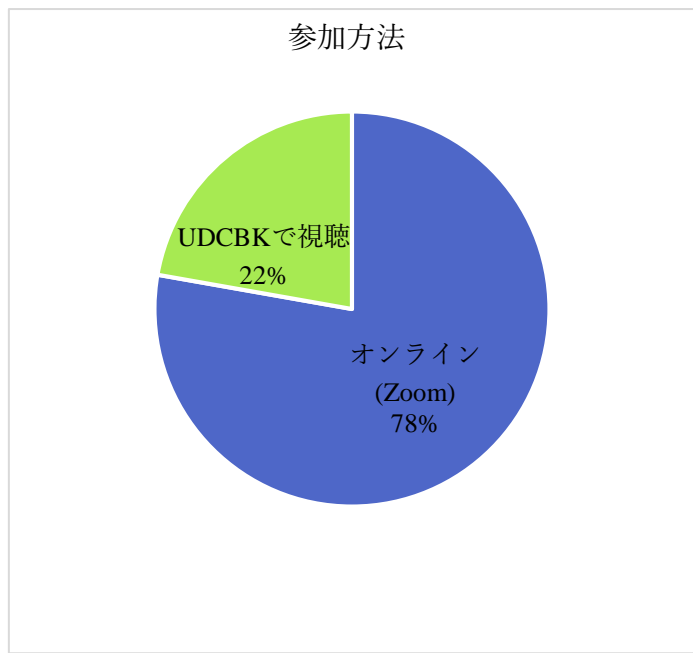
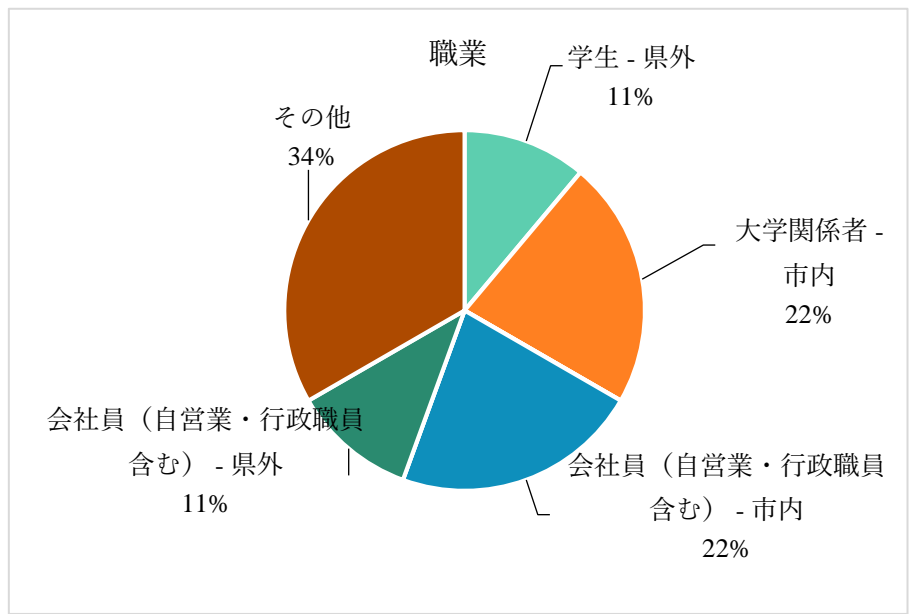
- 地域において保育園を整備する際は、都市計画と連携した立地計画が必要であると同時に、地域単位での近隣住民の声に耳を傾けるなど公共性とのバランスを考慮することが大切である。
- お互いを理解し合う機会や場が必要だと認識し、UDCBK でもそのような仕組みづくりを産学公民の皆さんと一緒に考えていきたい。

7. アンケートまとめ

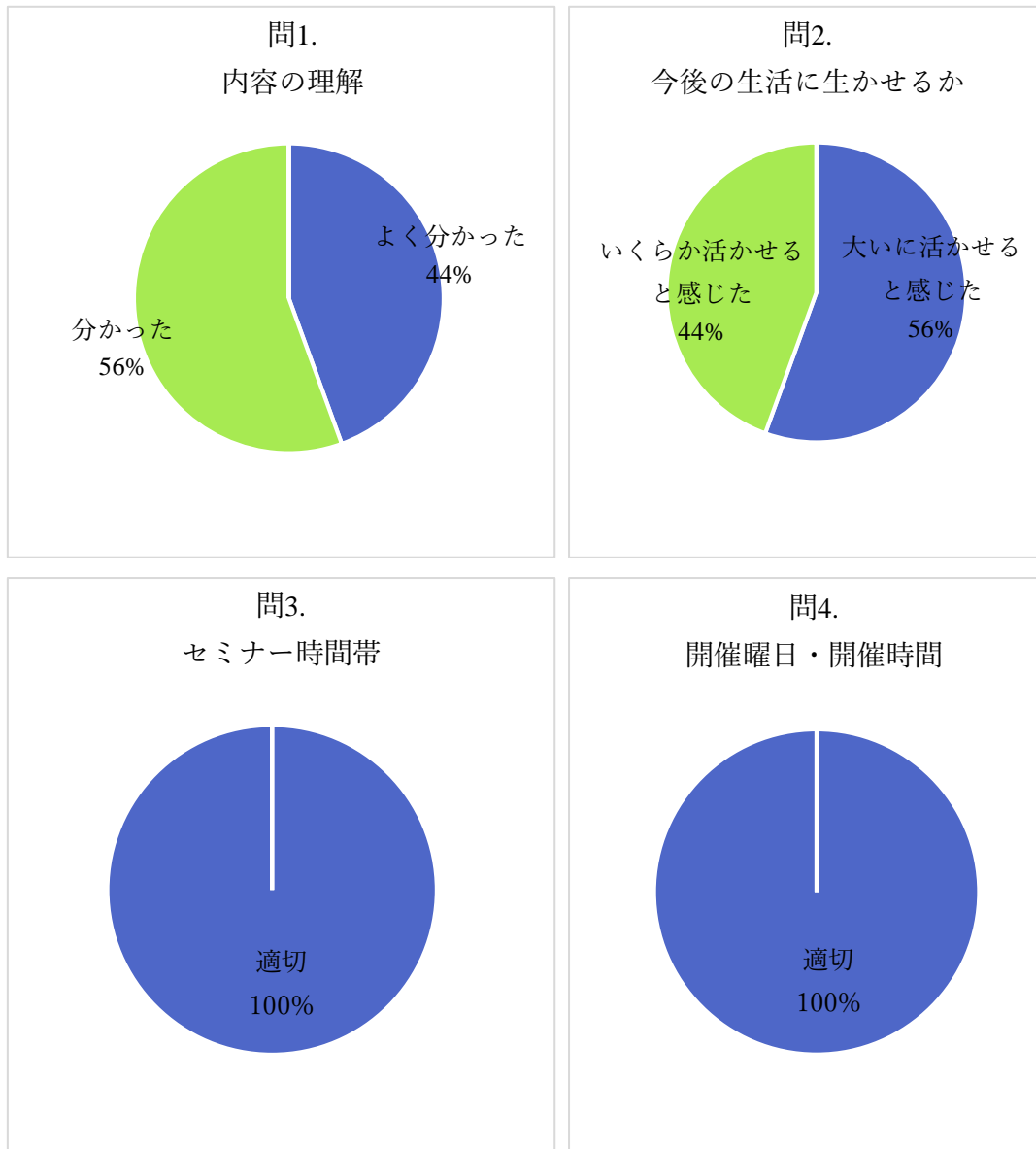
(1) 参加者属性

参加者 13 名のうち、アンケートに回答いただいた方は 9 名、回答率は 69% だった。





(2) 内容について



【自由記入欄回答】

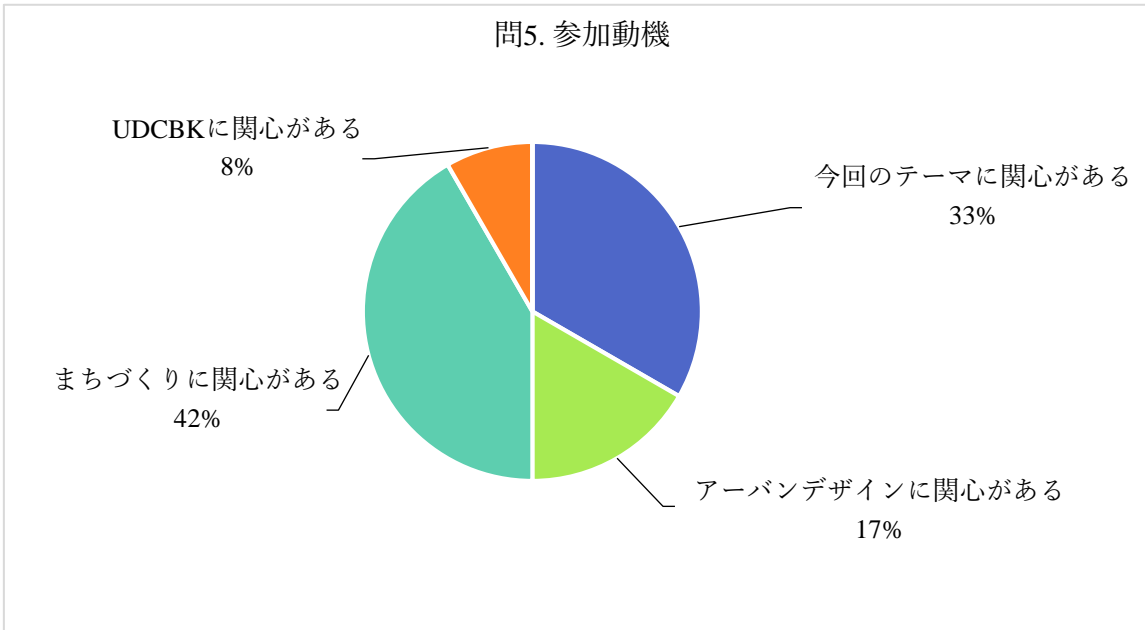
問3. 時間はどうでしたか。

回答なし

問4. 開催曜日、開催時間は適切でしたか。

回答なし

問5. 参加動機



【自由記入欄回答】

問6. それぞれに関心のあるテーマについて御自由に記載ください。

- 子供が生まれる前にゆかりのない土地に転居したとき、いかに知り合いをつくるかに苦戦し、どうやったら地域で交流の場を作れるのか、という点でまちづくりに興味がありました。子供が生まれた今は、知り合いを作る場は増えたものの、困ったときに頼れる親戚のいない土地でなかなか上手に他人の力を借りれず、興味があります。転勤族ほどその土地のコミュニティの力がいかに重要か、と痛感しています。これから居住予定の草津市で心地よいコミュニティの場があったらいいなあ、またそのための働きができたらなあ、と思っています。(40代女性)

【自由記入欄回答】

問7. 今回、印象に残ったこととその理由をお聞かせください。

- 後藤先生が居場所を作るための仕組みなども考えているということで、そういった話も個人的にすごく聞いてみたいと思いました(20代男性)
- まちの保育園建設に関する事情がよくわかりました。そこに住む方も、園に通う子ども・親も、皆が気持ちよく交流できるような方法論が確立することを願います。まちづくりに関する自治体間のナレッジ共有をやっているとは思いますが、このようなテーマもきちんとやるべきだなと感じました。(30代男性)
- 保育園開設にあたり、反対される事例などなかなか聞けないお話をありがとうございました。合意形成はどんな問題にしても難しいですね。また、幼保にもコミュニティコーディネーターがある事例は興味深く聞かせて頂きました。合わせて「運営協議

会」のある幼保・子ども園が草津市内にあれば知りたいと思いました。多世代交流・共生の場としては「みんなの家」さんが近い事例かと思います。今後増えていくとまちが明るくなり、良いと思います。参加者の方がおっしゃった散歩でご挨拶効果。市内の小学校では「挨拶運動」として行われていますが、確かに子ども園の子たちの笑顔を見ているだけでもこちらも笑顔になりますね。(50代女性)

- 後藤先生ありがとうございました。保育園がまちづくりに果たす役割や社会課題について大変わかりやすいご説明を頂けたと思います。「おわりに」で纏めておられる通りと思いました。機会がありましたら是非次回は滋賀県へ足をお運びください。今後のまちづくりに多くの示唆を与える研究だと思いました。(50代男性)
- 印象に残った事は2つあり、第一は、保育園設置に対する反対運動の理由でした。印象に残った理由は、私自身の子供の頃は、保育園や小学校の運動会の音楽や下校時のアナウンスなども、大音量で聞こえる事は普通でしたので、騒音が大きな反対理由という事に驚いたからです。第二は、保育園もまちづくりの担い手になり得る、というお話でした。理由はまちづくりに関してのUDCBKの活動をいろいろ教えて頂く中で、「こういう事に子供さんも参加してもらえれば良いのに」と私自身が感じる事があったからです。最初から教育の一環として組み込まれたものではなくとも、自由参加で子どもさんたちも参加できる事が大事だと改めて感じました。(60代女性)
- 保育園児の子どもが2人おり、園のすぐ近所に住んでいます。先生方は近所にいつも配慮して運営されていますが、保護者の路上駐車が苦情の原因となり、今年度、警察を巻き込み大きな問題となったことから、円滑な運営には利用する保護者の意識も非常に重要だと実感したところでした。苦情ばかりではなく好意的な意見の方が多いという調査結果は、保護者の立場からはありがたいことだなと感じた上で、色んな立場・考えの人々がいることも認識し、行政としては合意形成に向かえるよう準備・調整を怠ってはならないと改めて勉強になりました。ありがとうございました。(30代女性)
- 保育園がまちづくりに大きな役割を持つということがよく分かりました。開園後は地域に溶け込み、町内の様々な方々とうまくコミュニケーションを取られていることは、地域内の連携の輪にメンバーが加わるという視点で大きなメリットだと思います。大変勉強になりました。ありがとうございました。(60代男性)
- 初めて"コミュニティコーディネーター"という職種を聞き、非常に興味を持ちました。やりたいことかもしれません。参考文献を拝読しようと思いました。保育園がまちづくりに関わった事例をもっと知りたかったです。今住んでいる自治体で、公立保育園+市営住宅という複合施設を見かけました(老人福祉施設も...?)。居住者と子どもたちの交流がある様子で、気になっています。(40代女性)